

【新潟県】長岡市農業再生協議会（中之島）

方法



協議会の概要

申請件数・確認面積：256件、350ha

主な申請品目：水稻、大豆

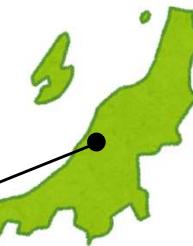
協議会事務局：市役所、

JJA職員

経安主担当者：市職員2名

JJA職員3名

新潟県長岡市



現在の現地確認方法の導入経緯

- 関わる団体が多いため**JJA職員の調整業務の負担が大きい**ことが課題。
- 畠地化促進事業（産地づくり体制構築等支援）を活用し、R6年度に既存の農地台帳システムと連携した地図システムと現地確認用のタブレット**を導入した。
⇒現地確認を**JJA職員のみで実施できる体制**に整備

導入の効果（メリット）

- 一部事務（レンタカー準備や農家組合への連絡、謝金支払）が不要になり、**JJA職員の事務負担が軽減**。
- 農地台帳システムの連携しているため、**地図出力や写真の紐づけが一気通貫で可能**となった。
- 合計で**延べ110人日**を要していた現地確認作業について、**52人日**に改善され、**約53%の削減**となつた。
- R8年度以降の見込み
立札が不要となり、回収もなくなるため、**現地確認に要する費用と時間が削減される**

現地確認の方法（対象筆数：5,200筆）

方法	導入前（R6年度まで）	現在（R7年度から）
確認者	JA職員、中之島支所、土地改良区、農済、農業者（96名）	JA職員（7名）
時期・回数	7月	6月、7月
手順	①農業者への事前案内、立札と野帳の用意・配布、レンタカー・現地確認説明会会場の確保（JA） ②農業者・関係機関へ応援要請（JA） ③1筆ごとに目視で確認、立札回収（確認者） ④確認者から立札と野帳を回収（JA） ⑤確認結果を水田台帳へ入力、作物不明農地を再度目視で確認（JA） ⑥現地確認に参加した農業者へ謝金支払（JA）	①農業者へ事前案内、立札の用意・配布（JA） ②タブレットを基に1筆ごとに目視で確認、立札回収（JA） ③確認結果を水田台帳へ入力（JA）
費用	70万円（レンタカー代（6台分）、農業者への謝金、会場費、立札の費用） ※千円以下切り捨て	導入費用：265万円（R6年度） 運用費用：71万円（立札の費用（R7のみ）、ガソリン代、地図システム保守）

課題・問題点（デメリット）

- タブレットは**炎天下や長時間の使用が困難**。（タブレットの過熱や充電が長持ちしないケースがあった。）
- 導入初年度は**現地確認に時間を要した**。（立札も配布しており回収作業に手間がかかった。）



システムからの出力例

農地写真一覧 内…プレビュー/GK…現地確認/SD…主題図 令和8年1月26日

大字 - 小字 - 地番	地番Key	地図の選択 MI-Key	
現況 地権者情報	基幹作物	二毛作物	水稻作物
耕作面積 所有者情報			
02-5812-2538-673-ja-1-12-109918153994-hv02-214			

↑ 現地確認作業風景